

会 報

平成 30 年 3 月 31 日 発行

「新理事長就任の挨拶と抱負」

理事長 齋藤 健司（筑波大学）

平成 29 年度より日本体育・スポーツ政策学会の理事長を拝命することとなりました。本学会の創生期にあたる体育・スポーツ行政研究会の頃より、本学会の活動に参画して参りましたが、今日までに学会が発展してきたことは、これまでの関係各位のご尽力によるものと考えております。また、今後とも本学会の益々の発展に向けて、理事長としての職責を全うする所存でおりますので、皆様のご協力ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

また、日本の体育・スポーツ政策については、スポーツ庁の設置、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を間近に控え、関連する諸施策が急速に展開される状況の中で、本学会の果たす役割が問われていると考えております。基本は、学術団体としての矜持を保ち、学術や社会の基盤となるべく研究の推進に取り組むことであると考えております。

学会の運営につきましては、まず、会員相互の交流や参加の促進を図り、本学会の組織の活性化や新たな会員の獲得に努めたいと考えております。平成 29 年度は、手始めに学会として出版の企画を検討しておりますが、会員の皆様がこの企画に参画することによって学術図書の刊行とともに本学会の学術基盤の向上と交流の一助となればと考えます。今後、関係する出版企画の連絡等が届くと思いますが、会員の皆様のご参加を何卒よろしくお願いいたします。

次に、本学会さらには政策学を担う次世代の研究者の育成や若手研究者の交流・支援についても検討して参りたいと考えております。体育・スポーツ政策学は、世界的にも国内的にも徐々に学術研究の組織が生成し、認知されるようになってきました。このような発展の時期を経て、今後はさらに研究の国際化や質の向上が高まっていくものと考えますが、その発展を担う次の世代へと学術研究や学会活動を繋げていきたいと考えております。昨年度より理事のほかに、若手の先生や院生の方に事務局のスタッフや運営委員をお願いし、

メーリングリスト、テレビ会議、会報作成、出版企画などにご参画いただいておりますが、今後ともさらに若手の参画を図りたいと考えております。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、第二期スポーツ基本計画の内容を読みますと、「体系化」「政策目標」「成果指標」など政策学的な用語も使用されるようになってきました。文部科学省では、スポーツ政策に関する調査研究を実施するなど政策調査が具体的継続的に実施されています。体育・スポーツ政策への政策学的な知識の適応や導入が少しずつ浸透するようになってきました。

『スポーツ政策論』の刊行、学会誌の発刊、学会大会学術企画の実施とこれまでも本学会の活動が実際の政策の内容に着実に影響を与え、知識の提供につながっていると感じております。今後とも、ますます本学会の会員による学術研究が蓄積され、学として大成して参りますように、組織面と学術面で本学会の益々の発展に尽力して参りたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

《大会報告（26 回大会）》

第 26 回日本体育・スポーツ政策学会報告 学会大会を終えて

大会実行委員長 横山勝彦（同志社大学）

平成 28 年 12 月 4 日（日）、日本体育・スポーツ政策学会第 26 回大会が、神戸親和女子大学で開催された。大会は、午前中に 16 本の一般研究発表、午後には東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長の布村幸彦氏、並びにびわこ成蹊スポーツ大学学長の嘉田由紀子氏の基調講演と、筑波大学の齋藤健司氏とびわこ成蹊スポーツ大学の黒澤寛己氏の司会のもと、同志社大学の真山達志氏、早稲田大学の間野義之氏、神戸大学の長ヶ原誠氏をパネラーとし、基調講演者のお二人を加えたシンポジウム、終了後に開催された情報交換会で構成された。

一般研究発表では、大学院生を中心とする若手研究者たちから、スポーツを巡る現行の制度と政策実施に関わる政策形成過程、政策評価あるいは政策指標に関する興味深い発表とフロア

との熱心な議論が交わされた。

基調講演は、布村氏からは「スポーツには世界と未来を変える力がある」をテーマに、組織委員会の取り組みの現状の紹介と今後の方向性が論じられた。嘉田氏からは、「地域から考えるオリンピック・パラリンピックへの期待」をテーマに、東京 2020 大会と地域との関係や文化プログラムとの協働の必要性が論じられた。

続くシンポジウムでは、東京 2020 大会が契機となり、国民がスポーツを文化として受容していくための政策課題の議論を深めることを趣旨に、真山氏からは組織のガバナンス、間野氏からは開催後のレガシー、長ヶ原氏からは関西マスターズゲームズについてのキーノートレクチャーをもとに、東京 2020 大会開催を単なる打ち上げ花火に終わらせないための討論がなされた。

最後に、開催校の神戸親和女子大学の皆さま、大会事務局長の田中聡先生、神戸親和女子大学と同志社大学の学生アルバイトの皆さまに深く御礼を申し上げます。

《大会参加報告 (26 回大会)》

日本体育・スポーツ政策学会に参加して

米村真悟 (同志社大学大学院)

私は現在、同志社大学大学院総合政策科学研究科にて、「スポーツによる協働型社会構築」というテーマで研究を行っております。東日本大震災に伴う被災地の復興支援活動において、多様な主体による協働の重要性を痛感し、それに寄与するスポーツの在り方について、修士課程の頃より研究を行ってきました。

このような研究関心から、政策学の視点からより多角的かつ重層的に自身の研究を捉えることを目的に、昨年度より日本体育・スポーツ政策学会に参加させて頂いております。二回目の参加となる今年は、新しい官民連携手法であるソーシャルインパクトボンドに関する発表をさせて頂きました。スポーツ政策の領域で様々な研究をされている方々からのご指摘は、自分の研究を客観的に見つめ直す貴重な機会となりました。

また、学会当日に行われた、2020年東京オリンピック・パラリンピック副事務局長布村幸彦様や元滋賀県知事で現びわこスポーツ成蹊大学学長の嘉田由紀子様を始めとする有識者の皆さまのパネルディスカッションで提示された本質的な問題提起は、私自身の研究における問題意識を整理するのに大変参考となるシンポジウムでした。特に行政学者である真山先生がご指摘されたガバナンスに関するご指摘は、2020年に向け、これまで以上に様々な分野での協働が必要であるスポーツ界において、とても重要な論点ではないかと感じました。

その意味でも、引き続き今後の学会において、体育・スポーツをベースとしつつも、それらに限らない様々な分野の研究者・実務者の皆さま

が集まり、意見を交換し合う学会となることを願ってやみません。また、そのような学会の隆盛に少しでも貢献できるよう、私自身意義のある研究発表を行っていきたく感じた次第です。

最後に、この度の研究発表に関して、貴重な機会を提供して下さいました本学会の関係者の皆様、私の研究内容に関して様々な意見を下さった大学院生の皆様、そして未熟な私の研究に最後まで熱心にご指導を下さった横山勝彦先生に深く御礼を申し上げます。

日本体育・スポーツ政策学会
学会大会参加報告

古川拓也 (早稲田大学大学院)

平成 28 年 12 月 4 日、神戸親和女子大学にて日本体育・スポーツ政策学会第 26 回大会が開催された。当日は午前一般研究発表、午後基調講演とシンポジウムが執り行われた。一般研究発表は筆者を含め計 16 名であった。一般研究発表は、我が国のスポーツ政策に関する研究、スポーツと地域に着目した研究、運動部活動研究など、国内の事象に関心を持つ研究のほか、韓国の体育政策に着目した研究、ドーピングに関する国際規約に関する研究など、国外の事象に着目した研究も散見された。

今大会の基調講演、一人目は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会にて副事務総長を務める布村幸彦氏によるものであった。講演テーマは「スポーツには世界と未来を変える力がある」で、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の大会の組織、大会運営、レガシープラン等の最新の動向と今後の方向性について語られた。二人目は、びわこ成蹊スポーツ大学学長の嘉田由紀子氏が登壇した。「地域から考えるオリンピック・パラリンピックへの

期待」と題し、嘉田氏が滋賀県知事時代に取組んだ琵琶湖環境政策、子育て・女性参画、地域雇用・活性化等の政策、関西広域連合における活動の紹介された後に、オリンピック・パラリンピックへの期待について話がなされた。

シンポジウムは、シンポジストとして基調講演の2名に加え、同志社大学政策学部教授の真山達志氏、早稲田大学スポーツ科学学術院教授の間野義之氏、神戸大学教授の長ケ原誠氏が迎えられた。「2020年東京オリンピック・パラリンピックを考えるー東京から地域連携へー」というテーマで、ビッグスポーツイベントを通じて国民がスポーツ文化を受容していくために解決すべき政策的課題について議論が行われた。

以上、この度の学会大会の一般研究発表、基調講演ならびにシンポジウムを概観した。本報告が今後の体育・スポーツ政策研究の発展に寄与できれば幸いである。

日本体育・スポーツ政策学会
第26回大会に参加して

平塚卓也 (筑波大学大学院)

この度、第26回大会に参加させていただきました。私は、戦後初期の文部省の体育政策について、1949年に文部省体育局が廃止される過程より検討し発表しました。発表後の質疑応答や情報交換会などを通じて、多くの先生方よりご質問やご意見をいただきました。それらは、研究を深めるうえで大変参考となりました。ご指摘いただいた点を踏まえ、さらに研究を進展させ、次回大会においてその成果を発表できるようにしたいと思います。

また、基調講演ではお二人の先生のご講演をお聞きすることができました。布村先生の「スポーツには世界と未来を変える力がある」とい

うテーマのご講演では、今まさに2020年東京オリ・パラの準備をされている立場からの期待や準備の現状、課題についてお聞きすることができました。嘉田先生の「地域から考えるオリンピック・パラリンピックへの期待」というテーマのご講演では、主に滋賀県知事時代に取り組まれたことについてお聞きすることができました。とくに、東京オリ・パラにおける文化プログラムの大切さについてのお話が印象的でした。シンポジウムでは、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を考えるー東京から地域連携へー」というテーマのもと、真山先生、間野先生、長ケ原先生、それぞれの視点からのご講演をお聞きすることができました。

基調講演、シンポジウムを通じては「ゴールデン・スポーツイヤーズ」に向けてスポーツ政策が大きく動いていることを改めて感じました。そこには、大きな期待とともに様々な課題があることについても理解を深めることができました。体育・スポーツ政策の研究をするものとして、現実の動きや課題を踏まえつつ、自身の研究と向き合っていこうと思いました。

最後に、この度の学会大会への参加は私にとって非常に貴重な経験となりました。学会大会の準備・運営をしてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

《大会報告 (27回大会)》

第27回日本体育・スポーツ政策学会報告
学会大会を終えて

大会実行委員長 齋藤健司 (筑波大学)

第27回学会大会は、平成29年12月2日(土)・3日(日)に、筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催され、14の一般研究発表、2つ

のシンポジウム、理事会、総会が行われました。シンポジウム 1 では、高橋義雄氏（筑波大学）の司会のもと、川井圭司氏（同志社大学）、小林勝法氏（文教大学）、三沢英生氏（株式会社ドーム）の 3 名をシンポジストとして、「経済活性化の機能を託された大学スポーツを問う」と題した討議が展開されました。シンポジウム 2 では、金子史弥氏（筑波大学）の司会のもと、今泉柔剛氏（スポーツ庁）、小林勉氏（中央大学）、塚本拓也氏（筑波大学）の 3 名をシンポジストとして、「国際スポーツ人材の育成と大学」と題した討議が展開されました。

ご参加くださった会員の皆様には、ほんとうにいろいろとありがとうございました。ここに改めまして、厚く御礼申し上げます。

《大会参加報告（27 回大会）》

日本体育・スポーツ政策学会 第 27 回大会に参加して

藤岡成美（公益財団法人笹川スポーツ財団）

この度、日本体育・スポーツ政策学会第 27 回大会に参加させていただきました。

大会 1 日目は「経済活性化の機能を託された大学スポーツを問う」「国際スポーツ人材の育成と大学」の 2 テーマに関するシンポジウムに参加しました。第 2 期スポーツ基本計画内では「大学のスポーツ資源の活用」や「スポーツを通じた国際社会の調和ある発展」が掲げられておりますので、いずれの内容も非常に興味深く拝聴しました。

また、大会 2 日目は「訪問留置調査とインターネット調査におけるスポーツ実施状況の回答傾向の違い—スポーツライフ・データ 2016 を用いた比較検証—」というタイトルで発表を行いました。フロアからは「WEB 調査画面の詳

細を知りたい」「混合法とはどういったものか」「WEB 調査では、どの程度まで回答者属性を目標回収数に合わせることが可能なのか」等といった質問をいただき、さらに発表後にも聴講者と情報交換をする機会がありました。聴講者の方々とお話した印象では、WEB 調査を使用する（または検討する）機会が増えているものの、果たして本当にデータとして信頼できるのか、また調査の実施やデータの解釈に際しては具体的にどのような点に注意すればいいのかといった点について悩んでいる方が多いように感じました。今後は、本発表の内容を踏まえて成果としてまとめ、様々な方法で発信していくことで情報を公開していく所存です。貴重なご意見等を頂いた皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

本学会大会への参加は久しぶりでしたので、参加前は少し不安な点もありましたが、自身の研究発表に関するフィードバックを得られただけでなく、シンポジウムや他の研究者の方々の発表を聞くことで、非常に有意義な時間になったと感じております。最後に、このような貴重な機会を提供し、準備・運営をしていただいた本学会の関係者の方々に深くお礼申し上げます。

日本体育・スポーツ政策学会大会 第 27 回学会大会での発表を終えて

中田賢一（新潟医療福祉大学大学院）

まず、この度の第 27 回学会大会におきまして、発表の機会を頂きました事をこの場を借りまして深く御礼申し上げます。

今回、初めての参加となりました学会大会におきまして、私が長期的な研究課題として取り組んでおります、「体育学の沿革」の一片、「新

学会大会参加報告

齋藤貴博（東京学芸大学大学院）

制大学の発足と大学体育教育」を発表させて頂きました。題目を見ての通り、発表の題目も内容も現在の体育・スポーツ政策学研究の主流や中心ではないことは確かであります。多くの方が分類したならば、教育学や体育学における歴史と分類されるかと思えます。しかしながら、歴史は全て当時における現代であり、全てその時々々の事情や情勢により必ずや政策が打たれています。言うならば、政策・施策の積み重ねが歴史となっております。このような観点から、日本体育・スポーツ政策学会の大会にて発表の機会を願った次第であります。

発表の要点を記させて頂きます。わが国における体育学の大きな節目は第2次大戦後1949年の学制改革にあります。旧制大学にない「体育学部」が誕生した事、全ての大学に「体育科目」が導入された事です。つまり、体育学の学術化の起ころはここにあると考えることができます。体育学部・体育科目共に他の学問とは違い、旧制大学に体育学士が居なかった事や純粋な体育学を研究していた学者が多く居なかった事もあり教員編成では、他学問の学士や高師、師範、専門の卒業生、更には臨教修生で凌ぎました。施設においても、体育の本丸とも呼べる体育施設はどこの大学も不十分であり、軍事施設転用が良いほうでした。このようなソフト面、ハード面と不十分な状況下においても新制大学体育に関係した要人らはこの機会を逃すとわが国において体育の学術発展が見込めないであろうと危機感から無理強いをしてでも体育学部と体育科目の発足に尽力した事がわかりました。先人の思いや願いが叶い、わが国における体育学が順調に歩みだした時が新制大学誕生期ということでもあります。この事実こそが当時の体育政策と呼べるのではないのでしょうか。

この度、筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催された日本体育・スポーツ政策学会第27回に参加させていただき、「学会大会参加報告」を執筆する機会をいただきましたことを感謝申し上げます。私が本学会大会に参加するのは今回が初めてで、大きな刺激を受けるとともに、私の問題関心や研究領域を広げ、深めるきっかけをいただけた大会でありました。

一般発表では、体育・スポーツ政策に関わる多様な研究テーマが見られ、自分の知らない世界に足を踏み入れているような感覚でした。しかし、「政策」は「物事」を動かす際に欠かせない領域であり、私の研究領域である体育社会学やスポーツ社会学という領域と密接な関係にあると感じました。具体的な政策を講じるためには、体育やスポーツの原理を捉え直す基礎科学も必要であり、社会学と政策学が両輪となる必然性を改めて認識することができました。

私が報告した「教育支援センターにおけるスポーツ活動」についても、まだまだ原理的な知見にとどまっています。具体的な政策や制度的側面についての知見を導き出すことができなかったことは、私の勉強不足を再認識する機会となったと同時に、研究を深めるための課題を提示していただけた貴重な経験となりました。

また、シンポジウムでは「大学×スポーツ」ということで、今後の日本のスポーツを支える「大学」が持つ、可能性と課題について勉強させていただく貴重な機会となりました。シンポジストの先生方がご尽力されている研究に、私のような若手研究者も努力を重ね、未来を担う存在にならなければと、僭越ながら感じた次第です。2020年が目の前に迫っている中で、本

シンポジウムのテーマについて多分野からの知見をご教示いただけたことは新たな学びとなりました。

今大会で学び得たことを、今後の自分の研究活動に生かし、ますます努力を積み重ねようと思

います。

最後になりますが、今大会の準備・運営に携わってくださった大会実行委員長の齋藤健司先生をはじめ、諸先生方、関係者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

第 28 回学会大会案内

日本体育・スポーツ政策学会第 28 回大会は、桐蔭横浜大学（神奈川県・横浜市）にて 2018 年 12 月 8 日（土）に開催されます。詳細は、同封の日本体育・スポーツ政策学会第 28 回大会開催要項をご参照ください。学会員の皆様におかれましては、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

《平成 28・29 年度理事会報告》

＜平成 28 年度・第 1 回理事会＞

日時：平成 28 年 6 月 5 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 27 年度第 5 回理事会議事録（案）の確認
- ・理事の役割分担（案）について
- ・新入会・退会者の承認
- ・平成 28 年度学会大会について（大会実行委員会組織案等）
- ・学会賞、奨励賞について
- ・アジアスポーツ政策学会結成準備会について
- ・ホームページについて

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報の発行について
- ・セミナーの開催について

＜平成 28 年度・第 2 回理事会＞

日時：平成 28 年 9 月 11 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 28 年度第 1 回理事会議事録（案）の確認
- ・新入会・退会者の承認
- ・平成 27 年度決算報告
- ・平成 28 年度学会大会について（準備進捗状況）
- ・ホームページについて
- ・スポーツ科学部等における「スポーツ政策」「スポーツ行政」の指導内容及びその現状に関する報告（第 3 次）
- ・学会誌「投稿規定」の改正について

【報告事項】

- ・「アジアスポーツ政策学会」の創立大会について
- ・研究誌発行について
- ・セミナーの報告

＜平成 28 年度・第 3 回理事会＞

日時：平成 28 年 12 月 4 日（日）

場所：神戸親和女子大学 4 号館

【審議事項】

- ・平成 28 年度第 2 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 28 年度総会について
- ・平成 28 年度学会大会について

<平成 28 年度・第 4 回理事会>

日時：平成 29 年 2 月 19 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 28 年度第 3 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 28 年度総会議事録（案）の確認
- ・平成 28 年度学会大会について
- ・平成 28 年度学会大会の決算（収支）
- ・アジアスポーツ政策学会 役員選出依頼について
- ・学会賞、奨励賞について
- ・新入会員の承認

【報告事項】

- ・研究誌発行について

<平成 29 年度・第 1 回理事会>

日時：平成 29 年 2 月 19 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 29-30 年度の理事役割分担について
- ・平成 29 年度学会大会について
- ・関西セミナーについて

<平成 29 年度・第 2 回理事会>

日時：平成 29 年 4 月 15 日（土）

場所：同志社大学今出川キャンパス

筑波大学東京キャンパス

（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 1 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 29-30 年度理事役割分担（案）について
- ・運営委員の設置について
- ・新入会・退会者の承認
- ・平成 29 年度学会大会について
- ・学会賞、奨励賞について
- ・メーリングリストの構成員に関する申し合わせ（案）について

- ・平成 28 年度学会大会の収支決算について

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報の発行について
- ・セミナーの開催について

<平成 29 年度・第 3 回理事会>

日時：平成 29 年 7 月 9 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 2 回理事会議事録（案）の確認
- ・新入会・退会者の承認
- ・平成 28 年度決算報告
- ・出版企画について
- ・平成 29 年度学会大会について

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報の発行について
- ・セミナーの開催について
- ・日本スポーツ体育健康科学学術連合について
- ・メーリングリストの構築状況について

<平成 29 年度・第 4 回理事会>

日時：平成 29 年 9 月 24 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

同志社大学今出川キャンパス

（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 3 回理事会議事録（案）の確認
- ・新入会・退会者の承認
- ・平成 29 年度学会大会について
- ・出版企画について
- ・アジアスポーツ政策学会について

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報の発行について
- ・セミナーの報告

<平成 29 年度・第 5 回理事会>

日時：平成 29 年 12 月 2 日（土）

場所：筑波大学東京キャンパス

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 4 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 29 年度総会について
- ・平成 29 年度学会大会について
- ・学会賞、奨励賞について
- ・新規入会・退会について
- ・ICSEMIS（International Convention on Science, Education and Medicine in Sport）開催に向けた検討事項回答票について

・その他

【報告事項】

- ・学会誌について
- ・会報について
- ・出版企画について
- ・その他

<平成 29 年度・第 6 回理事会>

日時：平成 30 年 2 月 24 日（土）

場所：筑波大学東京キャンパス

同志社大学今出川キャンパス

（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 5 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 29 年度総会議事録（案）の確認
- ・平成 29 年度学会大会の決算（収支）
- ・出版企画について
- ・平成 29 年度学会大会について
- ・平成 30 年度学会大会について
- ・平成 31 年度学会大会（日程及び会場）について

て

- ・アジアスポーツ政策学会について
- ・体育学会専門領域名称変更について
- ・その他

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報の発行について
- ・セミナーの報告
- ・その他

《学会誌の原稿募集について》

学会誌「体育・スポーツ政策研究」の原稿を募集しております。投稿規定をご確認の上、下記編集委員会事務局メールアドレスへ、word ファイル形式の原稿をメール添付にてご送付ください。

神戸親和女子大学 田中聡研究室

「体育・スポーツ政策研究」編集委員会事務局
stanaka@kobe-shinwa.ac.jp

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町 7 丁目 13-1

《平成 28 年度新入会員》

安井大樹（筑波大学大学院）

中村和裕（福山大学）

蓬田高正（天理大学体育学部）

眞鍋隆祐（彰栄保育福祉専門学校）

Kim Yong Wook（金容旭）（Hag Yang University）

LEITNER Katrin Jumiko（ライトナー カトリン ユミコ）（立教大学コミュニティ福祉学部）

姜知佑（カンジウ）（筑波大学大学院）

棚村英行（筑波大学大学院）

中田賢一（新潟医療福祉大学大学院）

大西広之（中京大学社会科学研究所）

（敬称略、所属等はいずれも当時）

《平成 29 年度新入会員》

林恒宏（大阪成蹊大学）

寺脇久人（大阪学院大学）

加藤幸真（日本大学）

加藤秀治（佐野日本大学短期大学）

鈴木知幸（国土舘大学法学部客員教授、スポーツ政策創造研究所）

木藤友規 (順天堂大学スポーツ健康科学部)
塚本拓也 (筑波大学)
藤岡成美 (公益財団法人笹川スポーツ財団)
斎藤貴博 (東京学芸大学大学院)
菅文彦 (早稲田大学スポーツ科学研究科 博士
後期課程)
船先康平 (筑波大学システム情報工学研究科博士
後期課程)
(敬称略、所属等はいずれも当時)

《会員数》

平成 30 年 3 月 11 日現在の会員総数は、199
名です。入会を希望する方がございましたら、
入会申し込み案内をお送りいたしますので、事
務局までご連絡ください。

《事務局便り》

◇住所変更などはお早めに事務局へ
ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変
更がある方は、FAX 等にて至急事務局までご連
絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い

平成 29 年度会費、前年度までの未納会費の
お振込みをお願いいたします。

口座名：日本体育・スポーツ政策学会事務局
郵便口座 No. : 00130-4-561426

◇学会誌のバックナンバーについて

学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバック
ナンバーを 1 部 2 千円にて配布しております。
ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページについて

下記 URL でホームページが開設されています。

<http://www.jsppes.org/>

日本体育・スポーツ政策学会 会報第 27 号

発行日：平成 30 年 3 月 31 日

発行人：日本体育・スポーツ政策学会
会長 笠原一也

編集：理事会広報担当 松畑尚子

事務局：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学芸術スポーツ科学系
松田研究室内

Tel&Fax 042-329-7643

Email sportseisaku@gmail.com